

新町の医療体制のあり方について

桜井 明雄 議員

問

合併協議の中での住民アンケート調査において、新町の重要施策として医療環境の充実を求める意見が第一位（六七％）ありました。

そして、第一回定例会の町政執行方針の新町の医療のあり方については、北檜山国保病院を中心にした、いわゆる北檜山国保病院を主幹病院と先に位置付け、仮称「医療対策協議会」を設置し、その中で十分議論を深めたいと示しています。

そこで質問いたします。

①将来とも安定した医療体制を構築するための方策を、どのように現在考えているのか伺います。

②北檜山病院を中心に位置付けとした理由と、築三十年ほど経つ北檜山国保病院を将来改築整備を考えているのか。

③仮称「医療対策協議会」を

早急に設置すべきだと考えますが、設置する時期、メンバーの構成、及び人数をお伺いします。

仮称「医療対策協議会」に委ねる

答・町長

①医療体制は、何よりも新町の財政基盤に見合うものと考えられ、現在の医療体制の再編合理化も避けて通れないものと思います。

また、医療に対しては、多様な町民ニーズがあり、基本的には、二次保健医療機関である八雲総合病院との関係、あるいは三次保健医療圏との相互連携等を一層密にすることにより、本町の公的医療が一次保健医療機関としての立場を徹底し堅持する規模であることが将来の財政負担のバ



ランスから極めて大切であろうと考えます。

さらに、民間医療機関との連携、すみ分けを徹底することも医療体制を構築する上で大きな要素でもあります。

本町のような地域では、基本医療、初期医療の採算性は極めて厳しいとされておりますので、病院事業に対する国の交付税等の財政支援措置を最大限に活用して、町民に対する医療の安心、安全を図っていくことが行政の責任を果たす上で何よりも大事であると考えています。

②この地域では、透析、介護

及び療養などの特定医療を除き民間投資が困難で、特に基本医療、初期医療の不採算地域であることは衆目の一致するところで、町民の医療需要は不変であり、行政として将来とも確実にその責任を果たすため、北檜山国保病院を中心とした公的医療体制と民間医療機関との連携、すみ分けをしています。

改築整備の考え方については、医療対策協議会の議論にもありますが、基本的には中立的な公的医療機関として北檜山国保病院を存続する、存置する考えでありますから、

当然、必要な時期に行わなければならないと考えます。

これは大成区、瀬棚区の公立の医療機関についても同様です。

③本年度中に協議会の構成規模あるいは審議の方向性の要件を慎重に定めて、新年度の極力早い時期に設置してまいりたいと考えています。

問・再質問

医療対策協議会を立ち上げる前に、主幹病院を北檜山国保病院ではだめだという意味ではなく、先に位置付けることに難色を示しているのです。総合的に皆さんのご意見をいただける場所づくりが必要だと思います。難しい三地区の医療体制をどう持っていくか、真っ白な部分からこの辺の協議をしてほしい。

構成メンバーは、現場に当たっている方々、それにかかわる有識者など、民間の方々も当然入れ、早急に決めていただきたい。

国保病院を改築すると幾ら

くらいの改築費がかかるか。医師の人数は何人必要か。そういう状況の中で財源的処置をどう捉えているか。

北檜山国保病院を中心という町長のお考えですが、このことに関して、瀬棚、北檜山、大成のそれぞれの院長先生、診療所々長と、選挙前とか、現在に至るまで、この大事な医療体制に関してお話されていると思うが、その辺伺います。

答・町長

北檜山国保病院を主幹病院ということとは早過ぎるというのですが、病院の規模、地域性を考えても、北檜山国保病院が中核となつてせたな町の医療体制を考えるべきだと考えています。

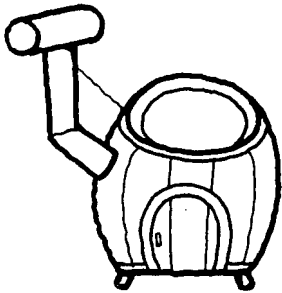
ただ、その後どのような体制を整えるか、医療対策協議会の議論にゆだねたいと考えています。それにメンバーですが、まだ残念ながらそのまま作業を進めておりません。年度内にこの作業を終了さ

せて、十八年度に協議会を立ち上げたいと考えています。

北檜山国保病院の改築の問題ですが、ここ三年、五年ですぐやるという状況ではないと思つています。多分もう少し後になるだろうと。それはその時点で私は判断をしても

らなければいいのではないかと。改築をすることはしますけれども、その規模をどうするか、あるいは医師の数をどうするか、地域の状況も十分考えながらやればいいことだと思つています。

また、国保病院の先生や瀬棚の診療所々長等には、選挙前も選挙後も、病院の問題をどうするというような話はしていません。



地域特別配分予算制度の創設について

問

合併議論で最も住民の心配事は、中心地（本庁）から遠い町（地域）が廢れるのではないかとということであった。

今後、財政の健全化を目指す上で人件費の削減など全般にわたり行政のスリム化を図るとき、地域の行政サービスの低下が懸念されます。

そこで、この不安解消の施策として地域自治組織、いわゆる町内会等の充実を図り、知恵を絞り、官民が一体となつて町づくりを取り組む必要性を感じます。

いわゆる地域住民の方々に、低コストで最大の効果を上げる財源を与え、行政主導型から協働の社会に向けて推進すべきだと考えます。

合併の優遇措置として交付される地方交付税、いわゆる合併算定債の一部を北檜山区、大成区、瀬棚区のそれぞれの特別区、地域協議会で自らの発想で使える地域予算制度の

創設を望みます。

町長の所見を願います。

格差の平準化を優先

答・町長

合併議論の中で、最も危惧されてきたことは、行政区域が広域化することにより、中心部地域における行政サービスと中心部から離れた地域との行政サービスの格差が生じることです。

また、地域が自らの発想により行う合併特別区制度における地域活動においても、それなりの予算が伴うことも認識していますが、旧町における行政サービスや各種使用料などの負担制度には相当の格差があり、これらの平準化が優先されるべきであると考えています。

問・再質問

要望しているのは、決してたくさん予算を地域配分していただきたいという意味で

はなく、いろいろ行政改革する上で行政のスリム化が必要だということで、そうなる当然人員的な削減も避けて通れない時代になります。

そうなる、今まで余り考えていなかった地域の、いわゆる町民の方々の協力によって地域活性化も高めるという、いわゆる協働の社会をつくっていただきたいという願いがあります。

ただし、最初から何でもボランティアという話にならないと思ひましたので、有償ボランティアの部分で、三地区がいろいろとそれぞれの特徴を持てる動きに、活発に動かせるよう予算配分をつくつていただきたいと、そういう意味あいを持っていますので、再度答弁をしていただきたい。

答・町長

合併区の地域協議会の役割ですが、町政懇談会の開催あるいはコミュニティー活動の支援、クリーン作戦やスクー

そういった運行管理、各種イベント、公共施設の管理というのが主な仕事でして、これらについては、十分地域での協議会で検討して、必要な予算については本庁の方でしっかりと地域バランスを考えた中で調整をさせたほうが現状いいのではないかと思います。

これは、現在の財政状況を十分考えての話です。

せたな町クリーンな環境づくりに関する条例の制定に向けて

問

現在、暫定施行されている条例の中で、瀬棚町クリーンな環境づくりに関する条例があります。

この条例は、平成十二年に私が一般質問し、制定されたものであり、町民、事業者、行政の連携のもと、本町の環境保全及び生活環境の美化に関する責務及び努力義務を課し、快適でクリーンな環境の町づくりに寄与することを目

的とし制定されました。

そして今、地球規模での環境保全意識が急速に高まり、環境への負荷の少ない循環型の社会づくりが求められています。

地球温暖化の防止などあらゆる分野における環境問題の適切な対応が求められ、それらに向けて積極的に進むべきと考えます。

以上述べたとおり、これを条例化に向け推進していただきたいと思えます。ぜひ町長の力強い所見を伺います。

三月定例で提案

答・町長

クリーンな町づくりの推進は、町民一人一人に課せられた責務であるとともに、未来の子供たちに堂々と継承していかねばならないものと考えていますので、旧瀬棚町の暫定条例をベースに検討を加え、成案を明年三月定例議会に提案します。

新せたな町の財政運営方針について

真柄 克紀 議員

問

能であると考えているのか。

適正に計画を

答・町長

国の財政改革の動向を見極めながら人件費等の歳出削減に取り組む、起債残高の歯止めが最重要課題であると考えており、適正に計画を立て取り組んでまいりたい。

基金については、シュミレーションの中で示されているとおり、十年間かけて段階的な交付税の減額に対応するために、基金の積み立てに努力していく考えである。

今一番に手を付けることは、「新町職員定数適正化計画」に取り組み、公約実現のための財源確保に努力すべきだと思うが、どう考えるか。

又、合併協定では特例債の中から完全に基金を積み上げていくとされているが、このとおりに積んでいくことが可

お願い

議長宛の文書や案内状などは、議長の公務日程上の調整をする必要がありますので、議長の私宅に送付しないで、直接、議会事務局に差出人等を明記のうえ、送付してください。

なお、期日、期限等があるものについては、早めにお願ひします。

◆送付先 せたな町北檜山区徳島 せたな町議会議長あて



町づくりの進め方について

江上 恭 司 議員

問

旧町村では、本当に厳しい財政の中、職員と一緒にしながら、地方自治体として住民の生活を国の悪政から守るために、優れた住民サービスをたくさん行ってきました。

例えば、北檜山では、七十歳以上の老人家庭の水道の減免条例、デイサービスの利用者一部負担、瀬棚で行われているような〇歳児保育、子育て支援、就学前までの児童の医療費無料化など優れた住民サービスが、たくさん3町にはあるのです。

町長は執行方針の中で、安心して住める町づくり、住んで良かったという事を色々書いてあります。

各旧町で行っていた優れたサービスを今後とも引き継ぎ、更に発展させていくべきだと考えますが、町長のお考えを

伺います。

事務レベルで調整中

答・町長

行政サービスに関する使用料などの受益者負担の格差については、旧町において、一町又は二町のみ実施しているものや、同様のサービスもありますが、受益者負担に格差が生じているものもあり、諸課題解決に向け、調整が必要とされる事務事業の洗い出しを行政全般にわたり行い、事務レベルで検討作業を各担当課において現在進めています。行政サービスの質を高め、受益者負担を軽くすることは、住民にとって最も良い形である事は、提案の通りの認識を持っています。

しかし、合併後も厳しい財政運営を余儀なくされる中で、

健全な財政運営を図り持続可能な行政サービスを提供するためには、使用料、利用料などについては、行政サービスに見合った応分の負担を求めなければならぬと考えています。

町民の理解を得ながら、持続可能な行政サービスの提供に努めてまいりますので、ご理解願います。

問・再質問

一回目の町長答弁では、「決して高いほうに合わせるのではなく、財政に見合った形でサービスの考えている」と言っていますが、旧町の格差を是正して進めるなら、優れた住民サービスがなくなるのではないか、それは、町民に負担を求めることになると思われる。

せめて、今まで行ってきた行政サービスを続けていくべきだと思うが、再度町長の答弁をお願いします。

答・町長

私の説明で、多少誤解はあったというふうに考えています。

行政サービスに見合った応分の負担という事がご指摘になっている部分というふうに思っています。

決して高い方に合わせる事はしたくないと思っており、適正な負担をしていると思います。最終的に尽きると思います。

特に子育て支援では、余りやられていない部分についてもしっかりとやってまいりますが、現在、保育料などの大きな格差が生じており、思い切って瀬棚のレベルに近づけるよう、新年度予算に反映させたいと思っています。

せたな町の基幹産業について

問

合併したせたな町の基幹産業は農漁業であり、その発展が町の未来を左右する重要な産業です。

今回は、農業問題について

質問します。

今年の稲作は豊作にもかかわらず、米価は下落しています。ある農家の方とお話をしたら、「昔は、政府が買ってくれた時は、一万八千円だったけれど、今年は九千円を切る」と言っていました。半分で生活をしないといよ、という事ですが、できるわけがありません。再生産ができない農家経済に今、なっているわけです。

三十数年続いた減田政策も来年で終わり、二〇〇七年から、新しい農業政策が始まります。新しい農業政策では、

